

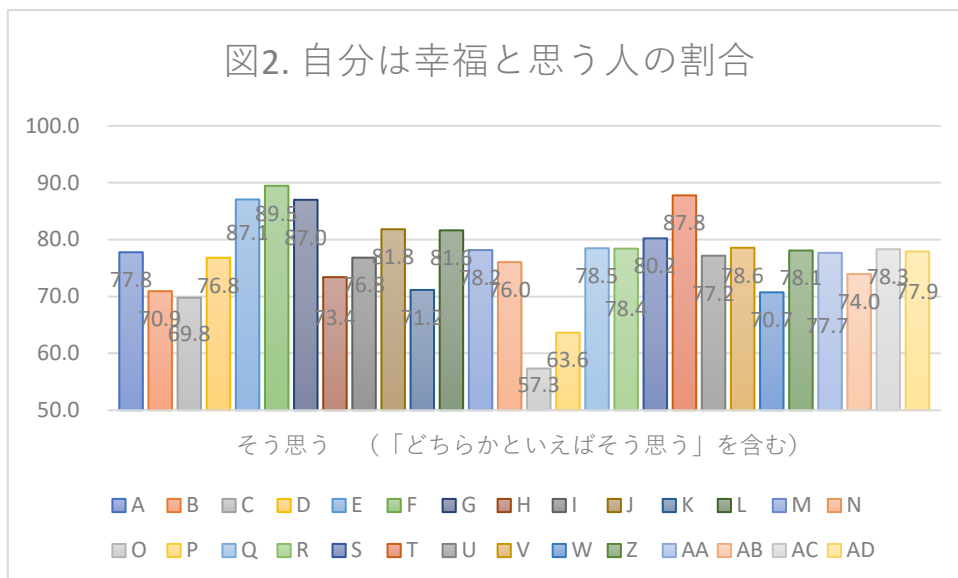
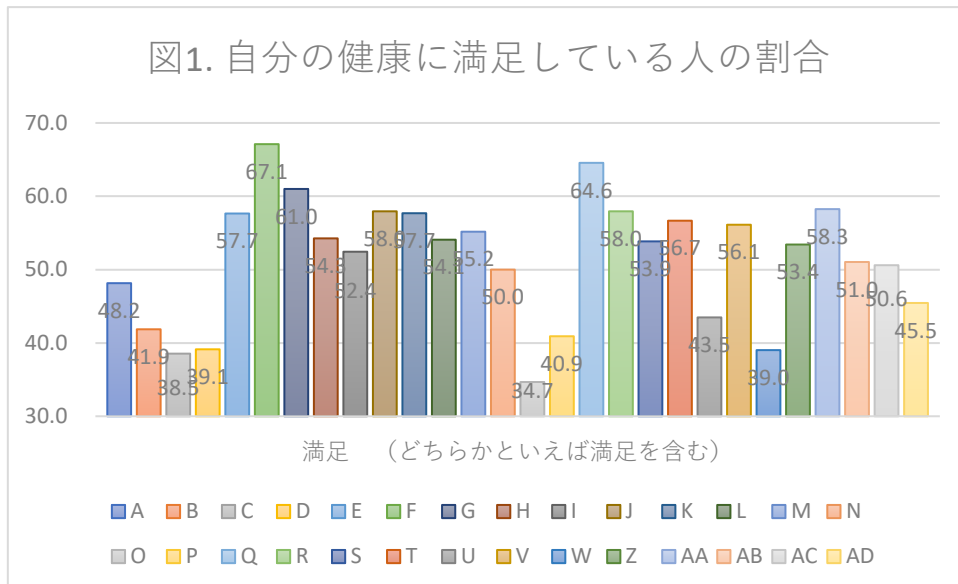
川崎市の地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査の概要（正式版）

東京大学文学部社会学研究室では、国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センターの委託を受けた研究の一環として、「川崎市の地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査」を実施しました。この調査は、「誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域の実現」をめざして、公私連携、官民協働を効率的にするために行われたものです。

川崎市の協力のもと、2017（平成 29）年 10 月～12 月にかけて川崎区・中原区・麻生区の市民 2400 名（18 歳以上）、2018（平成 30）年 7 月～8 月にかけて幸区・高津区・多摩区・宮前区の市民 3,200 名（同上）を対象に郵送調査を行いました。調査対象者の抽出にあたっては、各区から 4 つの小地域（計 28 地域）を選定し、そのもとで無作為抽出を行い、最終的に 2,457 名の方からご協力を賜りました（回答率 44.8%）。改めて感謝申し上げます。

1 小地域ごとに、健康満足度や幸福度にばらつきがあります

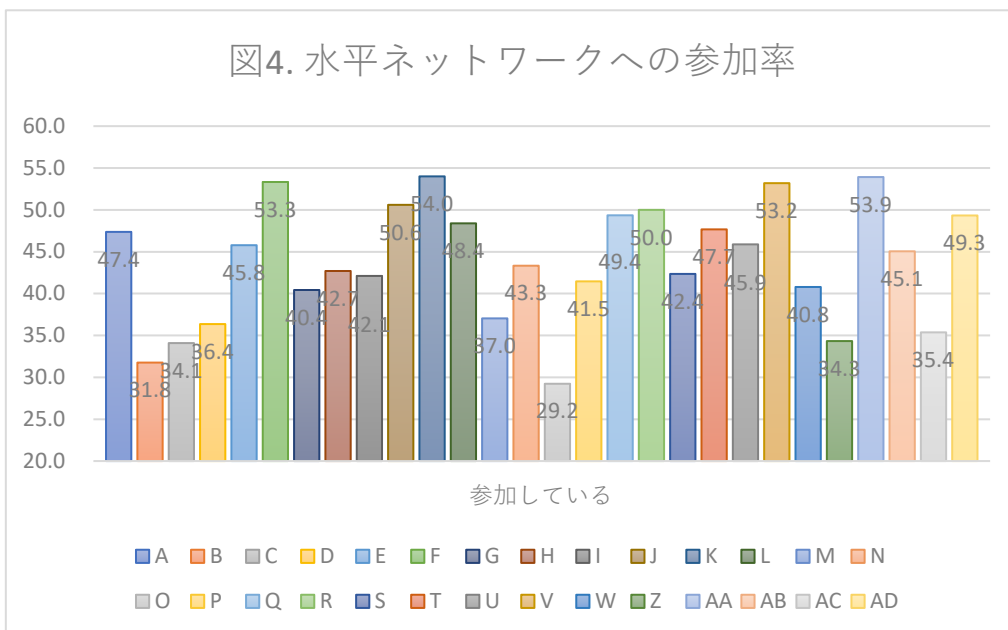
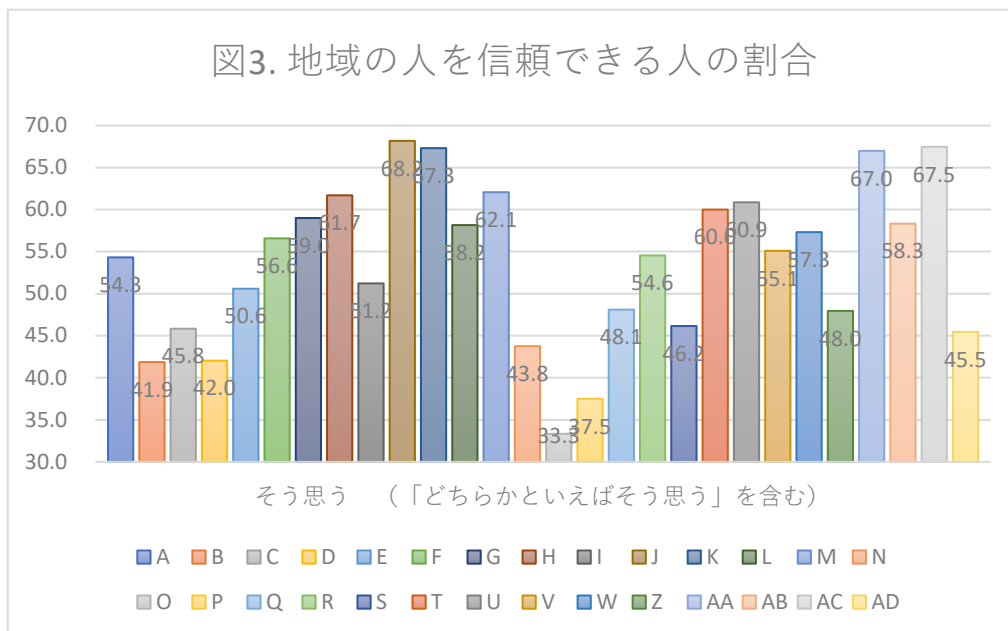
今回の調査では、28 の小地域ごとに、人々の健康満足度や幸福度が大きく異なることがわかりました（図 1、図 2）。



2 地域力を表すソーシャル・キャピタルも、地域ごとに差があります

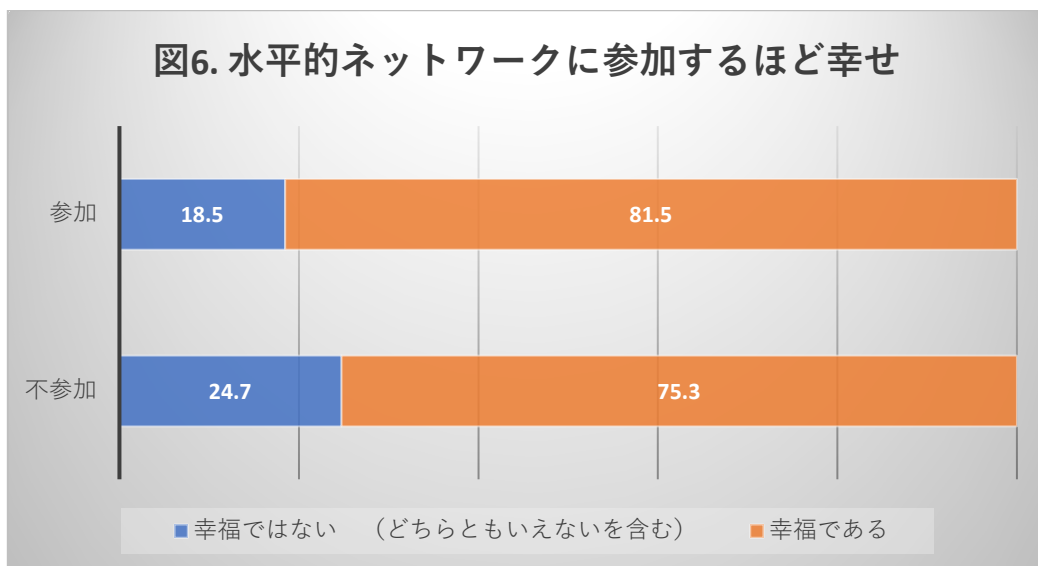
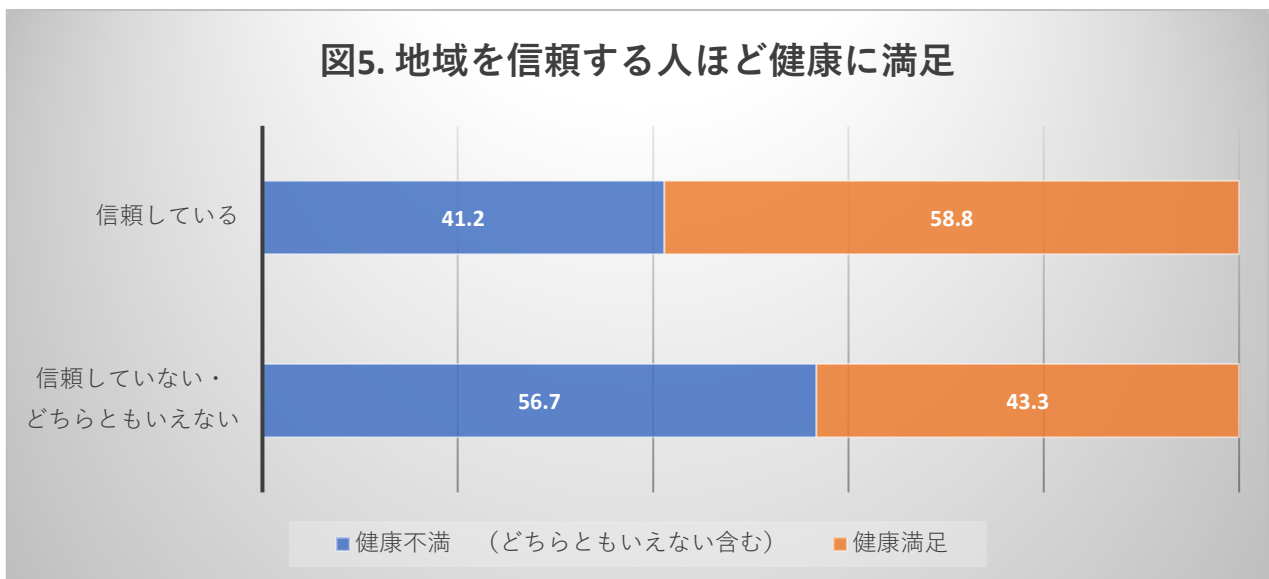
地域力の高さを表すソーシャル・キャピタルは、地域（ご近所）に住む人を信頼している人の割合や、さまざまな団体や活動に参加している人の割合などで測ることができます。

地域に住む人を信頼している人の割合（地域信頼）や、ボランティア・スポーツ・趣味などのグループ（水平的ネットワーク）への参加率にも、小地域ごとに大きな違いがあることがわかります（図3、図4）。



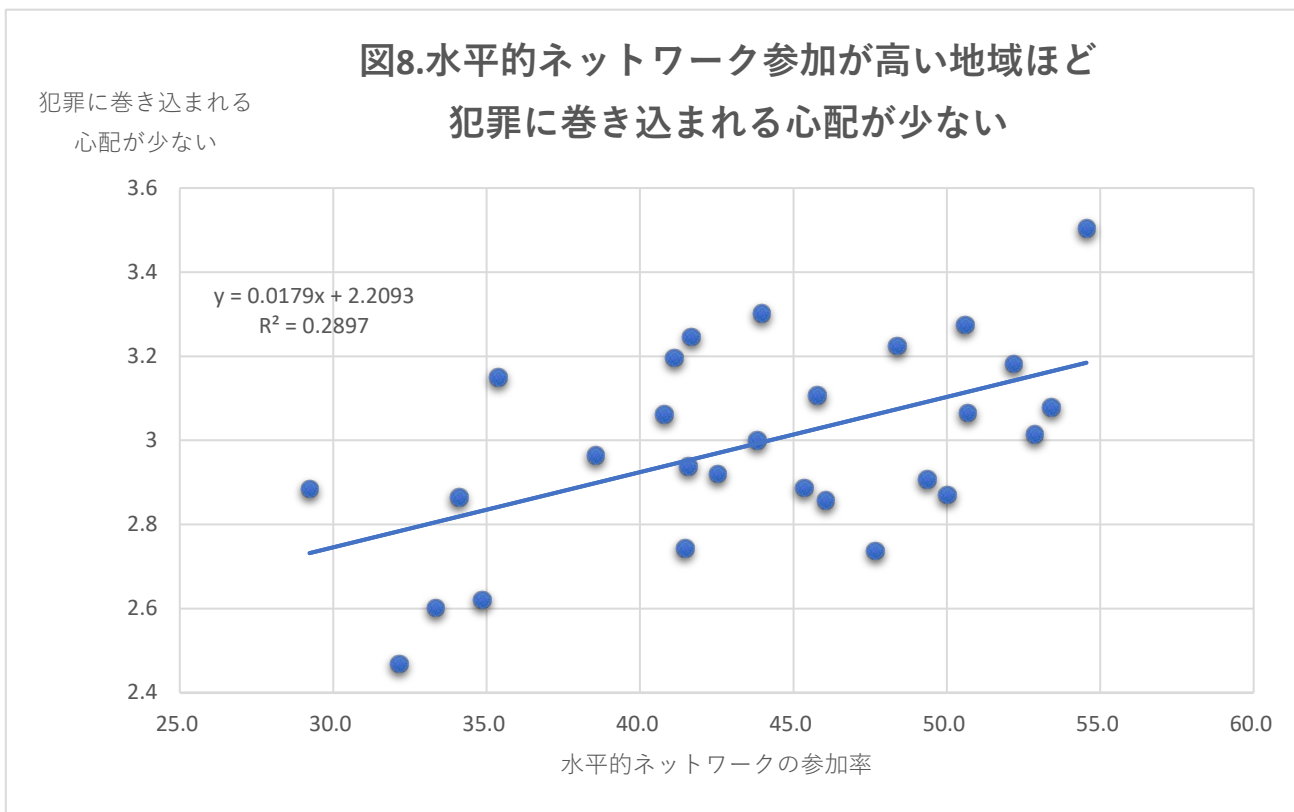
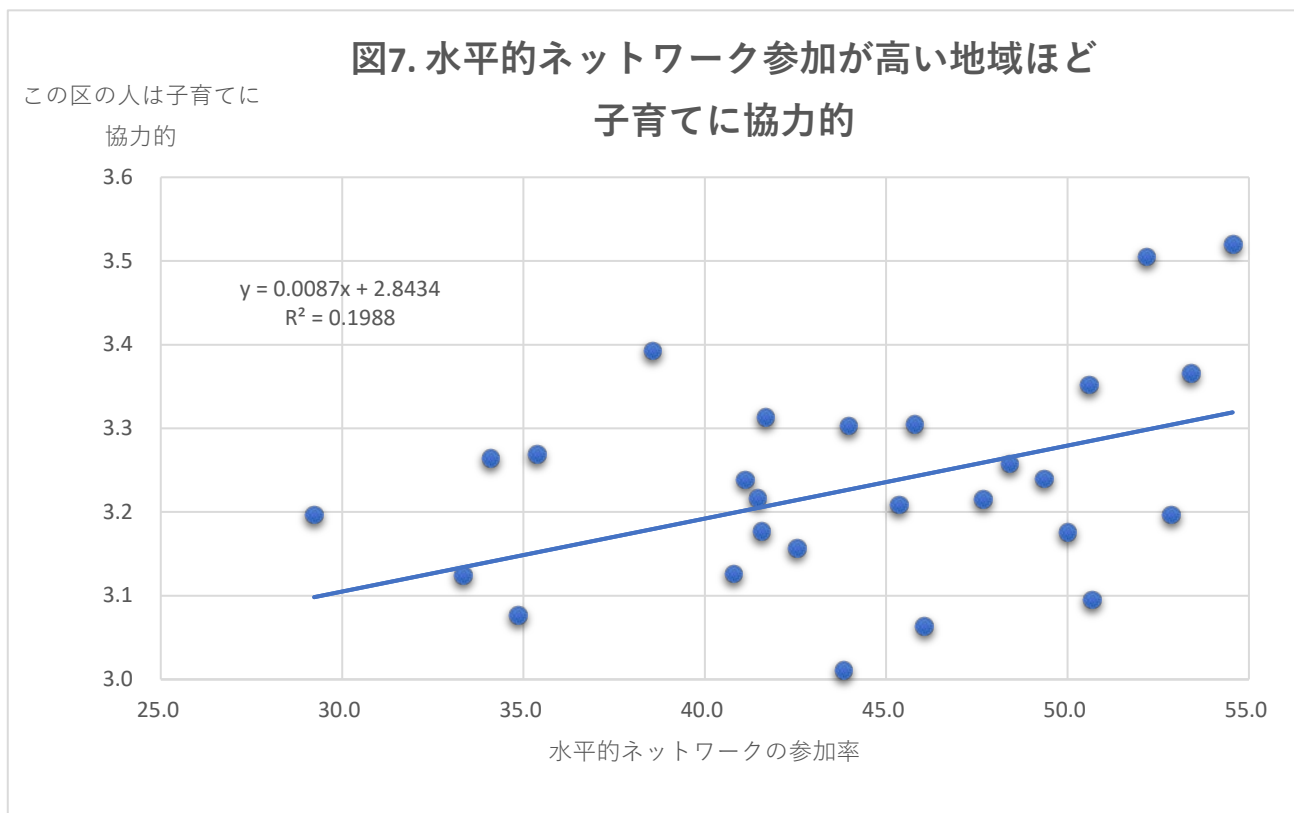
3 地域を信頼するほど健康に満足し、水平的ネットワークへの参加は幸福度を高めます

さらに分析を進めると、地域信頼が高い人ほど健康に満足していること、水平的ネットワークに参加している人ほどおり、幸福度が高いことがわかりました（図5、図6。対象者は全体）。



4 地域のソーシャル・キャピタルが高い地域は、子育てに協力的で、犯罪に巻き込まれる心配が少ないです

28の地域についてみると、水平的ネットワークに参加している人が多い地域ほど、子育てに協力的であり、犯罪に巻き込まれる心配が少ないと住民から評価されています（図7、図8）。



5 ソーシャル・キャピタルは、健康、幸福度、他者（外国人）への寛容さを高めます

個人が保有するソーシャル・キャピタルのなかでも、自分の住む地域を信頼し、水平的ネットワークに参加する人は、主観的健康感が高く、幸福度も高く、外国人などの他者に対して寛容になる傾向があります。これは単なる相関関係（数字上の関連）ではなく、ソーシャル・キャピタル（信頼と参加）が健康、幸福度、外国人に対する寛容さなどのアウトカムを高める因果関係であることが明らかになりました（図9）。

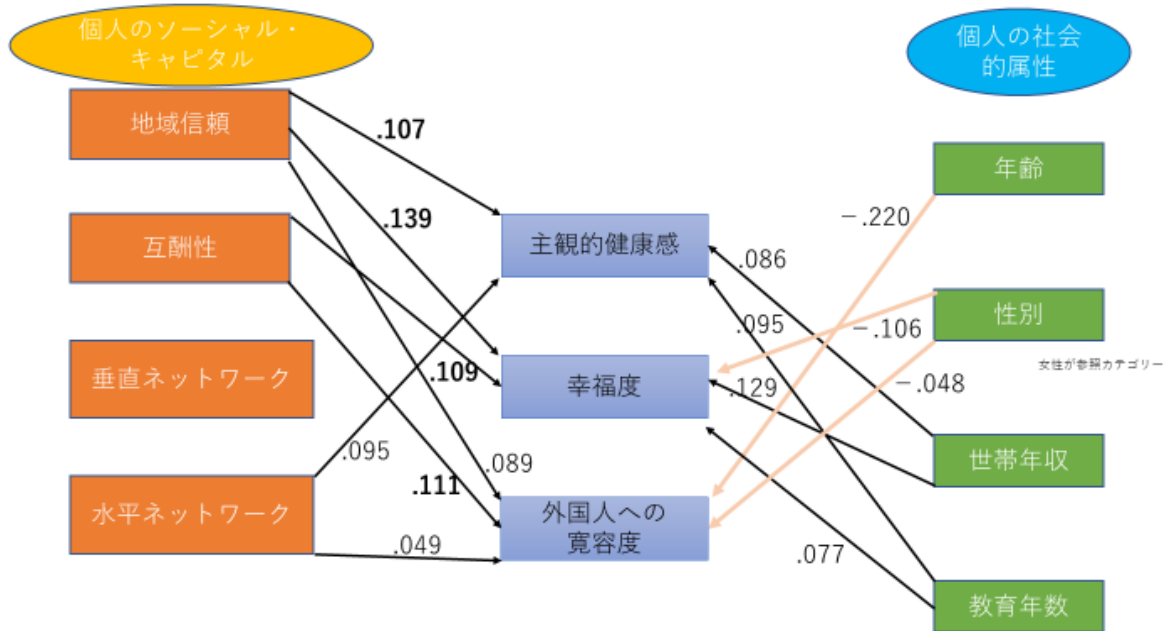


図9. ソーシャル・キャピタルが影響を与えるアウトカム

*重回帰分析、一の数字は標準偏回帰係数、 $p < .05$ を表示

*詳細は赤川学(2019)「ソーシャル・キャピタルと健康・幸福度の因果推論: ソーシャル・キャピタルは健康と幸福度を高めるといえるか」東京大学文学部社会学研究室ワーキングペーパー, S-9, による。

6 ソーシャル・キャピタルは地域包括ケアシステムの構築に役立ちます

ハーバード大学のイチロー・カワチ教授（社会疫学）によると、地域のソーシャル・キャピタルが健康を高めるのは、①緊密なネットワークによって健康によい情報が伝達される、②健康によいサービスが供給される、③住民間の摩擦が少なく治安が良くなる、④地方自治体の行政効率が高まる、などの要因があるからとされています（『社会疫学』大修館書店）。

今回の調査結果からも、地域のソーシャル・キャピタルが子育てに協力的な地域形成につながることで、個人の地域信頼や水平的ネットワークへの参加が、健康や幸福度、外国人に対する寛容度を高めることが明らかになりました。

全市民を対象とする、川崎市の地域包括ケアシステムは、全国的にも注目を集める先駆的な取り組みです。これをより一層充実させるためには、実証的なデータをもとに、地域ごとの課題の違いや、資源（人材、民間の活動、公的サービスなど）の強みをふまえて、それぞれの地域のソーシャル・キャピタルを高めることが有効です。その具体策を、市民の皆様とともに、私たちが考え続けていきます。

東京大学・大学院人文社会系研究科／文学部 社会学研究室

赤川学（教授）・祐成保志（准教授）

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学文学部

TEL&FAX: 03-5841-3877（研究室代表番号）